

## ベトナム SARS 集団発生(2003 年 3 月)に対する国際緊急援助隊の派遣事例

専門家チーム(ベトナム SARS 集団発生)  
SARS 患者の胸部 X 線写真の説明を受ける



専門家チーム(ベトナム SARS 集団発生)  
感染防御ワークショップでの発表



## ベトナム SARS 集団発生に対する国際緊急援助隊派遣の概要

災害状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>2003 年 2 月 23 日に上海・香港を経由してハノイに到着した米国人男性が原因不明の急性かつ重症の呼吸器症状を示し、同月 26 日にハノイ・フレンチ病院へ入院、その後回復しないため、3 月 3 日に香港に緊急移送されたが、原因特定ができないまま死亡。</li> <li>その後、その米国人男性のハノイでの入院先のハノイ・フレンチ病院の病院職員数十名が同様の発熱、頭痛、激しい咳等の症状を呈し、また、米国人男性が緊急移送された香港の病院でも、移送後の 3 月始めより同様の呼吸器疾患が発生し、数十名が発症、罹患した。</li> <li>WHO では本件疾病を暫定的に「重症急性呼吸器症候群(SARS)」とし、3 月 15 日付けで「緊急注意喚起」を發出し、世界的な注意を呼びかけた。</li> <li>2003 年 2 月、中国・広東省で 5 名の死亡患者を含む 305 人の患者が発生した「非定型肺炎」の流行との関連も視野に入れ、原因となった病原菌の特定を急ぐ一方、航空機による世界的感染の様相を呈しており、ハノイ、香港以外にもカナダ、中国、ドイツ、シンガポール、スロベニア、スペイン、タイ、イギリス、米国などからも類似の症状が報告された。</li> <li>事態を重く見たベトナム保健省は、上記米国人男性が入院していたハノイ・フレンチ病院の閉鎖を決定し、3 月 12 日付けで WHO に対し、本疾患の管理支援と封じ込め用の資機材供与について、日本政府を含む国際的な支援を要請する旨の書簡を發出した。</li> <li>死者 5 名、罹患者 63 名(2003 年 7 月 31 日現在)</li> </ul>
要請の背景	<ul style="list-style-type: none"> <li>3 月 13 日、ベトナム政府からの要請を受け、3 月 14 日付けで国際緊急援助隊・専門家チームの派遣が決定した。続く第 2 陣の要請は 3 月 24 日に行われ、同日の 3 月 24 日に派遣が決定した。</li> </ul>
活動サイト	ハノイ市内のバックマイ病院 (2001 年 1 月から 2005 年 1 月まで JICA 技術協力プロジェクトを実施中)
活動内容 (成果)	<p>(第一陣)</p> <p>①SARS に関わる情報収集(現状把握)、②緊急報告書の提出(3 月 18 日)、③必要な供与資機材のスペックの検索と携行機材の供与、④ベトナム保健省および WHO との連携・協力体制の確立、⑤退院許可ガイドラインの策定支援、⑥SARS 患者受入予定病院(バックタンロン病院およびザーラム病院)の体制強化支援、</p> <p>(第二陣)バックマイ病院における感染防御対策の強化が最優先の課題)</p> <p>①医療従事者実務者用感染対策ガイドラインの策定支援、および②ベトナム保健省、WHO、国境なき医師団(MSF)と協力し、感染対策セミナーの実施、③携行機材の供与、などを行った。</p>
その他	SARS 対策に関しては、国際緊急援助隊の携行機材の他、JICA:バックマイ病院技術協力プロジェクト予算より、緊急に約 4,600 万円分の医療機材(マスク、医療用手袋、ガウン、消毒液など)の供与が行われた。

添付資料 5

ベトナム SARS 集団発生に対する国際緊急援助隊の派遣事例

JDR	派遣期間	人数	内訳	概算経費
専門家チーム (第1陣)	3/16~3/25 (10日間)	3人	緊急感染症対策専門家2名 業務調整員1名 携行機材(防護服、マスク、人口呼吸器、ホルマリン)	15,098千円
専門家チーム (第2陣)	3/26~4/1 (7日間)	3人	緊急感染症対策専門家1名 団長1名(外務省) 業務調整員1名(第1陣より継続) 携行機材(マスク、医療用ガウン、医療用手袋)	

(注)概算経費には機材輸送費も含まれる。

ベトナム SARS 集団発生に対する国際緊急援助隊派遣スケジュール

	2003年3月		2003年4月		
WHO		●3/15WHO 緊急注意勧告		4/28 SARS 制圧宣言●	
ベトナム政府		○3/13 JDR 派遣要請		4/28 SARS 制圧宣言○	
日本政府		△3/14 JDR 派遣決定			
専門家 (第1陣)	3/16	————▶	3/25		
専門家 (第2陣)		3/26	————▶	4/1	

## 参考:バックマイ病院と日本の無償資金および技術協力

バックマイ病院は日本の無償資金協力「バックマイ病院改善計画」(1998年6月～2000年6月)により改修された近代的医療施設を備えたベトナム最大の総合病院である。無償資金の総供与金額は60億円、主な供与内容は、新病棟建設(病棟6階/技術棟4階、病床480床/手術室6室/分娩室3室)および医療機器(ICU、放射線科、手術室、内科、検査室機械等)の提供であった。

現在、JICAによる「バックマイ病院技術協力プロジェクト」(2001年1月～2005年10月)が実施中である。これは、バックマイ病院における医療の質を向上させ、ベトナム北部に裨益効果を及ぼすことを目的としている。本プロジェクトの対象分野は、病院管理、臨床医学、看護管理、臨床検査、地域医療など広範囲にわたり、日本人専門家が5名程度派遣されている。バックマイ病院では、国際緊急援助隊が派遣される前から、院内感染症対策に関する取り組みが行われていた。

そのような状況下で、国際緊急援助隊「専門家チーム」第二陣が派遣され、その活動の中で、感染症対策セミナーを実施した。

「専門家チーム」の帰国後も引き続き、バックマイ病院や、保健省が主催となり、「専門家チーム」によるSARS対策活動の結果を反映する形で、感染症対策セミナーを実施している。

## 主要感染症対策および関連セミナー

開催日	2003年 3月4日～5日	2003年 3月31日	2003年 6月12日	2003年 10月20～21日
主催	JICA:バックマイ病院 技術協力プロジェクト	保健省、WHO 国境なき医師団 (MSF) 国際緊急援助隊 「専門家チーム」	JICA:バックマイ病院 技術協力プロジェクト	保健省 (WHO 後援)
開催場所	ハノイ	ハノイ	ハノイ	ハノイ
内容	CLV(カンボジア、ラオス、ベトナム)院内感染 対策セミナー	感染症対策セミナー	SARSに係る感染症セ ミナー	SARS シンポジウム "Lessons Learned and Challenges"
参加者	約20名 カンボジア、ラオス、ベ トナムの各国から5名 ずつ、および各国の JICA プロジェクト関係 者など	20名以上 保健省、ベトナム国内 病院関係者、JDR 専 門家チーム、WHO、 MSF など	約350名 感染の危険性が高い ベトナム国内の医療従 事者、およびラオス、 カンボジアからの医療 関係者	約250名 日本、アセアン各国、 中国、韓国、米国、ニュ ージーランド、その他の各 国代表、NGO、メディア 関係者
備考	—	—	JICA(バックマイ病院 技術協力プロジェクト) がWHO およびMSF と共同作成したSARS 院内感染対策パンフ レットを配布した。	JICA(バックマイ病院 技術協力プロジェクト) とWHO およびMSFと 共同作成したSARS 予 防ビデオを放映し、 SARS院内感染対策パ ンフレットを配布した。